

手術用補てつ材開発

河野製作所 脳神経減圧術向け

【千葉】河野製作所（千葉県市川市、河野淳一社長）は、三叉神経痛と顔面痙攣の手術である脳神経減圧術で神経と血管の間の緩衝材などに使用する補てつ材を開発した。綿状にすることで手術の用途に応じ、糸や緩衝材に形状を変更でき、手術前の準備を簡略化できる。同社によると脳神経減圧術用の補てつ材の開発は国内初という。2022年4月をめぐりに販売する。

糸・緩衝材に変形

脳神経減圧術は脳神経で、国内で年間約3000件の術例がある。脳神経減圧術では神経から離して減圧する。脳神経減圧術では手術方法。顔面痙攣や神経から血管を離し、三叉神経痛へ有効な手



脳神経減圧術用補てつ材「シラクス」

とで、血管と神経を完全に離すトランスポジション、血管と神経の間に緩衝材を挟むインターポジションの2つの方法がある。今回開発した「Cirrax（シラクス）」はトランスポジションでは血管をつり上げる糸

としてインターポジションでは緩衝材としてそれぞれ使用できる。素材にポリテトラフルオロエチレン（PTFE）を使用しており、生体適合性と高い耐久性を確保している。

脳神経減圧術の手術に補てつ材として使う糸や緩衝材の準備に時間を要することなどから、臨床医から頭部手術用の用途に応じて形成しやすい繊維補てつ材のニーズがあった。

シラクスを使用することで手術前の工程を簡略化し、準備時間の短縮が可能になる。今後、河野製作所は医師から評価をヒアリングし、価格設定などを決定する。